

だ。

正式會見も遂に物別れ

翌十三日に至り會社側は更に攻勢に出で古久保音

楠(支部長)榎並徳造(支店連絡部長)の両君に内容証明を以て解雇を申渡した。かくて事態は益々大変に達したかに見えたが指導部に硬軟両派の意見もつれ、何れとも態度決しかねたまゝ事態の推移を注視して居たが、本日(十音)今一応會社側の誠意を確めるべく且つ又解雇者の職首理由を聞きたくすべく、解雇された榎並古久保、租台側八木古川大木元の五氏は午后三時、會社に鈴木大阪支店長を訪ひ、會見を求めたるも言を左右に花して迄せず種々折衝の結果、二十分間を限り従業員代表だけを条件に敬古奄人事課長并に伊藤守衛掛と會見することとなり、會社応接室に於て所轄署員憲兵隊員立會の下に第一回正式交渉を持つに至った。その席上、従業員代表が解雇理由の説明を求めたるに対し今人事課長は

解雇理由は諸君自身が胸に手を置いて考へたら分る筈だから説明の要なし

と一蹴し、両者間に種々押問答が繰返へされたが結局物別れとなつた。(此上本日午後五時迄の経過である)

尚、従業員側の提出した陳情書は左の通りであ